

# 41

2015.SUMMER



学報

挑戦。スポーツが時代を動かす

# NITTAIDAI

日体生学生オリンピックが競技への思いとその素顔を語る！

自然体でメダルに挑む 高木 美帆（スピードスケート／体育学科3年）  
好きだから翔び続ける 高梨 沙羅（スキージャンプ／体育学科2年）





高木 美帆（スピードスケート／体育学科3年）



高梨 沙羅（スキージャンプ／体育学科2年）

## 一求入魂

▷8月15（土）・16日（日）・17日（月）、9月20日（日）とオープンキャンパスが開催される。今年も日体大を志す多くの受験生との出会いが楽しめた。今号では、学生から受験生まで、読者の皆さんに夢や将来の可能性を感じていただける記事を企画した。

▷若くして冬期五輪の舞台に立った現役学生の高木選手、高梨選手。OB・OGでは老舗企業を率いる二木氏、モーターボートレースでプロとして活躍する島田選手。もしかしたら、いずれも本学では“異色の”存在かもしれない。さまざまな活躍の場が広がっている証だ。

▷インタビューで共通するのは、一つの競技に打ち込んできた強みが強力な武器になること。まさに「一求入魂」と言えるだろう。学生も受験生も、視野を広く持って羽ばたいてほしい。日体大では、そのための舞台が国内から海外まで用意されている。

学報NITTAIDAI（ニッタイダイ）41号

発行日●2015年8月1日

発行●日本体育大学広報委員会

TEL 03-5706-0948

FAX 03-5706-0922

http://www.nittai.ac.jp/

制作協力●（株）図書出版

## Special Contents

03

## 学生アスリートが語る「競技」「素顔」

自然体でメダルに挑む

高木 美帆（スピードスケート／体育学科3年）

好きだから翔び続ける

高梨 沙羅（スキージャンプ／体育学科2年）

07

## 活躍するOB・OG

老舗の菓子小売・問屋を舞台に、独自の経営観でビジネスを展開。日体大アメフト部での経験が、人として、経営者としての原点になった。

二木 英一 株式会社二木 専務取締役

未経験から、一念発起して24歳でプロのボートレーサーに。今からでも、誰にでも平等にチャンスがあるのがボートレースの魅力。

島田 なぎさ ボートレーサー

11

## 日体生なら知っておきたい！スポーツ・健康ワンポイントゼミ

いま子どものからだに何が起きているのか（1）

日体大総合研究所長／保健医療学部教授 武藤芳照

13

## 体育科学をリードする～大学院・研究科の取り組み

保健医療学部救急医療学科教授 石井隆憲

15

## 日体大のいまを知る！

平成27年度 上半期クラブの主な大会成績

17

## NEWS／INFORMATION

●平成27年4月3日 入学式を挙行

●日体大、国立韓国体育大学と学術・スポーツ交流協定（交換留学を含む）を締結。

●女子サッカースпонサー決定共同記者会見

●リンネ大学（スウェーデン王国）、オレロップ体育学校（デンマーク王国）と学術・スポーツ交流協定を締結

●FIFA女子ワールドカップカナダ2015のバブリックビューイングを開催

●ニジェール共和国イスフ・マハマドゥ大統領閣下ご一行が日本体育大学を訪問

●公開講座「あなたの健康と命を守るために」開講

●全国体育スポーツ系大学協議会が一般社団法人化



千葉吟子(1964年東京五輪)



鶴見修治(1964年東京五輪 銀メダル)



花原勉(1964年東京五輪 金メダル)



日本女子チーム(1964年東京五輪 銅メダル)

# Nittai Story

## 第18回 夏期オリンピック競技大会(1964／東京)

昭和39年10月10～24日に実施された東京オリンピック(第18回夏季オリンピック)。93の国と地域から5,500名を超える役員・代表選手が、アジアで初めてのオリンピックに参加。日本からは437名(役員82名／選手355名)の代表選手団が全実施競技にあたる20の競技に出場。私たちに大きな感動を与えてくれた。あわせて、同年10月1日に東海道新幹線が開業、首都高速道路の整備などが進み、日本が戦後復興期を経て先進国の一員となったことを世界にアピールする契機となった。

花原勉(本学名誉教授)がレスリンググレコローマンスタイル・フライ級で金メダル、鶴見修治が体操男子団体で金、体操(個人総合・鞍馬・平行棒)で銀メダル、本学女子1期生である池田敬子(本学名誉教授)および千葉吟子(本学名誉教授)が体操女子団体で銅メダルを獲得したほか、関係者が活躍。選手・役員に加えて、東京五輪大会運営に1800名、パラリンピック(東京)大会運営に100名が補助役員として参加した。また、5号館(第一体育館・当時)と6号館がバレーボール練習場として使用された。

期をほぼ同じくして、本学は健康学科(昭和37年)、体育研究所(昭和37年)、武道学科(昭和40年)を開設。東京五輪がさまざまな形で本学に刺激を及ぼした。体育大学から体育・スポーツの総合大学へ脱皮を図っていく上で大きな転換期となったと言えるだろう。

いま、児童スポーツ教育学部、保健医療学部が開設され、5年後に東京で2回目の開催となるオリンピック・パラリンピックを控えている。未来の人々はこの大会や本学の取り組みをどう評価するだろうか。その鍵は私たち一人ひとりが握っている。

# 高木美帆

(スピードスケート／体育学科3年)

M i h o T a k a g i



## 自然体で メダルに挑む

早くから頭角を現しながらも、  
気負わず淡々と競技と自分の夢を目指してきた。  
出会う人や仲間への感謝も忘れない。  
リンクを、人生を滑走する姿は、あくまで自然体だ。

### 環境に恵まれて バンクーバーの晴れ舞台へ

— 高木選手は日本スピードスケート史上最年少  
でバンクーバー五輪出場を果たしましたが。

当時は、五輪という気負いやプレッシャーはあ  
まりなかったですね。選考会に「いい経験にな  
るから出てみなさい」と言われて、「それならやっ  
てみよう」と思ったのが正直な心境です。

選考会では、始めは「えっ？どういうこと？」とい  
う感覚。でも、中学新記録(1500m 1分59秒  
47、1000m 1分17秒77)と自己ベストを出せ  
たのはすごく嬉しかった。1日目、2日目は五輪  
をあまり意識していなかったのですが、だんだん  
と「もしかしたら」という実感が湧いてきました。

— バンクーバー五輪出場時の思い出は？

初めてのシニアでの海外遠征で、先生方や先  
輩方にお世話になりました。なにをどうしてい  
いかわからないという状態の中、先輩方の練習  
や生活スタイルを見て、とても勉強になったと  
思います。

— 史上最年少の記録を塗り替え、早くから注目  
されてきたわけですが。

先生方や同級生に恵まれていたと思います。  
気をつかってくださったと思いますが、特別扱い  
されていたという意識はありませんでした。いつ

も通り自然に滑ることができる環境は、スケートを通じてきた中で変わりました。

多くの選手に、一生懸命練習してもなかなか結果に結びつかないという葛藤がある中、高木選手は淡々と練習に取り組み結果を残してきています。競技力が伸びたきっかけはありますか？

振り返ると人との出会いが大きいのと思います。小学生でチームに入った頃は、体が大きかったこともありますが、勝つ楽しさというようなことが単純にモチベーションになっていました。それが、島崎京子先生(現・杉山京子/スピードス



高木 美帆 (Miho Takagi) 北海道幕別町出身。兄や姉の影響で5歳からスケートを始める。スピードスケートで数々の中学新記録を樹立。バンクーバー五輪(2010年)に日本スピードスケート史上最年少で出場。世界ジュニア選手権(2012年・2013年ともに総合優勝で日本人初の連覇)、冬季ユニバーシアード(2013年、1000mで金メダル獲得)での成績を残し、平昌五輪での活躍が期待される。サッカードでナショナルトレセンU-15合宿に参加した経験も。

ソチの選考会を控えたシーズンには、何もかもがうまくいかない状況でした。それが不安や迷いとなり、ソチのためにすべてを出し切るといった気持ちになれなかった。それだけの覚悟がないとやはりだめなんです。

## 大学という選択で人としての幅が広がった

—アスリートとして競技力アップを目指している中で、大学進学を選んだ理由を教えてください。

大学進学を決めたのは、高校3年の夏です。実業団からも声をかけていただきましたし、いろいろな選択肢がありました。勉強することは嫌いでなかったし、身体関係の勉強とスケートを両立できるという点で大学進学を希望しました。

—悩んだこともあったんでしょうね。

確かに競技に専念するのであれば実業団という選択は魅力です。ただ、当時の私はそこまでの気持ちの整理ができていなかったのかもしれない。結構、悩みましたね。家族も、是が非でもスケートを頑張らなさいという雰囲気ではなく、私の意思を尊重してくれました。もちろん、大学進学という選択は、いまでもよかったと思っています。

—日体大に入学してよかったと思うことは？

いろいろな学ぶことは多いですね。まず、人間関係。これは実業団やナショナルチームだけでなく競技に専念している環境では得られないと思います。様々な競技や活動で頑張っている仲間が存在があつて、そのことで自分を見つめ直したり、人として幅を広げるきっかけになったと思っています。

—ジャパンのユニフォームも眩しいですが、やはり日体大のユニフォームを着て滑る姿を見るとすごく嬉しいですね。

チームメートの存在は大切にしています。スピードスケートは個人競技ですが、技術面やサポートなど、そういう支えがないと一人ではよいパフォーマンスはできないですから。

—授業や学校生活で印象に残ったことは？

キャンプ実習は楽しかったですね。授業では、教育カウンセリングやスポーツ心理学、スポーツバイオメカニクスなどが面白いです。自分の競技や将来に活かそうですから。高校の時に部活動の友人から体の使い方や故障や痛みへの対処のしかたについて相談を受けることがよくありました。ジュニアでトレーニングしていましたが、自分ではどうすればいいのかわかっているのですが、専門的な知識がないとうまく伝えることができません。もどかしい思いをしたことがありました。もともと体についての勉強は興味がありましたので、将来的にどのようにスポーツに関わっていくにせよ、しっかりと学んで自分や関わる人達のために役立てていきたいですね。

## 考え、試す。

### 静かに燃えて次の五輪を狙う

—平昌五輪が2018年に開催されます。いま、どのような思いで練習に臨んでいますか？

バンクーバーからソチまでの間もそうでしたが、平昌までもうあつと言う間ですね。具体的にに取り組んでいることと言えば、トレーニングはもちろんですが、考えることのほうが多いと思います。五輪に向けて五輪の次の年は、いろいろなチャレンジできるチャンスなんです。失敗しても取り返しのつく期間です。2年目もギリギリでそれができる。3年目になると、すぐ五輪を意識するようになります。やはり、ここで成功例があると余裕が生まれてきます。今年は試行錯誤できる最後の年ですから有意義に過ごしたいと思います。

—どんなことを試みようとしているのですか？

そうですね。ナショナルチーム(中長距離)にオランダのヘッドコーチが就任しました。オランダと言えば、ソチで多数のメダルを獲得したチームですが、日本人とオランダ人は体格が全然違います。一方で器用さは日本人のほうが優れている面もありますから、コーチの指導を取り入れつつ、それを自分に合わせていく作業をしていきたいと思っています。自分のオリジナルをあと3年かけて平昌までに見つけたいですね。

—ご自身の選手としての特徴はなんですか？

割とオールマイティなのではないかと思っています。逆に言えば特化したところがありません。どこにもありませんが、それがあつて団体バシュートで個性を発揮しているかもしれません。3人で滑りますから、前の人のリズムに影響を受けますし、それがこの種目の面白さでもあります。今年2月の世界距離別スピードスケート選手権では、姉(高木菜那選手)と菊池彩花選手と私で滑って、団体バシュート日本人初の金メダルを獲得しました。体格では、姉は小柄、菊池さんは大きい、私は普通。滑りは、姉はピッチが早い、菊池さんは大きい、私は普通。ですから、私が中盤に入ることによって、滑りやすくなる。たとえば、滑りが小さい人が大きい人に合わせるのは割と楽なんです。滑りが大きい菊池さんが、ピッチの早い姉に合わせるのは大変なはず。個性が強くないぶん、何でもそつなくこなすのが、私の強みでしょうか。

—最後に今後の抱負とご自身のモットーを聞かせてください。

まずは、平昌の出場とメダル獲得です。もちろんその思いは強いですが、それを内に秘めて淡々と自然体で取り組んでいくのが私のスタイルではないかと思っています。何事も引きずらない、あえて言えば「なんとかなる」と受け止めるのが私のモットーなんです。いろいろな挫折があつても、それは自分にとって何らかの形でプラスになっているとポジティブに考えるようにしています。3年後、そして将来の人生で自分がどう変わっていくか、楽しみです。

学生アスリートが語る「競技」「素顔」

# 高梨沙羅

(スキージャンプ／体育学科2年)

S a r a T a k a n a s h i



## 好きだから 翔び続ける

スキージャンプの魅力は浮力感とスピード感。それに惹かれて突き進んできた。日体大では仲間と出会い世界が広がった。好きな競技にひたむきに打ち込む姿は限りなくまぶしい。

先輩方の積み重ねの上に今がある

—これまでの競技人生の中で最も印象に残っている大会は、やはりソチ五輪出場でしょうか。

もちろん五輪は印象に残っています。これまでずっと五輪には女子スキージャンプの競技はありませんでした。女子スキージャンプという競技を作り上げて、頑張つて引張つてきてくださった先輩方のおかげで、自分が夢の舞台に立つことができたのです。その幸せを非常に感じています。私が五輪で結果を残すことで、感謝の気持ちを伝えたいと思っていましたが、思うような結果を残すことができず、とても悔しい思いで帰ってきました。

—大きな思いを背負つてソチ五輪に出場していたのですね。

ベストを尽くし切れず、結果も残せなかった自分に対して、悔しいというよりもあきれてしまったという印象です。自分のふがいなさを痛感しました。次の五輪では違う結果を残したいと思っていますが、今はやるべきことをしっかりと積み重ねていけたと思いますので、まずそこを実践していきたいです。

—競技経験の中で大きな壁におつかつてきたこともあったかと思いますが、どのように乗り越えて

きたのでしょうか？

何度か壁にはぶつかってきたのですが、それを乗り越えられたのは支えてくださった方々の力が大きいと思っています。苦しい時には一緒に喜んでくださり、それを乗り越えた時は私以上に喜んでくださる方々がいらつしやる。支えてくださる方々の笑顔を見ていると、もっと頑張らないうと、もっと喜んでもらいたいという思いが強くなるんです。

――調子が出なかった大会などで、ファンの思いがプレッシャーになったりすることは？



高梨 沙羅 (Sara Takanashi) 北海道上川町生まれ。2014年ソチ五輪日本代表選手。父や兄の影響で8歳からスキージャンプを始める。2011年2月に開催されたコンチネンタルカップで優勝し、国際スキー連盟公認国際ジャンプ大会での女子選手史上最年少(14歳)優勝記録を樹立。また、2011年第53回HBCカップジャンプ競技会、女子の部にて大倉山ジャンプツエの女子バックレコード141mを記録した。2014-2015シーズン終了時点でスキージャンプ・ワールドカップ歴代最多30勝を飾るなど、次々と記録を塗り替えている女子スキージャンプ界の第一人者。

歳から始めました。ただ地元は結構な雪山がいっぱいありましたので、物心がついた頃にはもうスキーを滑っていました。中でもジャンプ競技はすごく楽しかったですね。

――これまで最も影響を受けた指導者は誰でしょう？

これまでずっと父がコーチをしていて、小さい頃から私を見ていただけあって、私のクセや特徴を踏まえた指導をしてくれます。ただ特別なトレーニングをしているわけではありませんが…。

――あらためて高梨選手にとって、ジャンプ競技とはどんな存在なのでしょう？

今は自分の人生の柱になっていて、ジャンプを軸に生活が回っています。悩むことも、苦しいこともありませんが、それ以上に楽しいことがあります。今は自分の好きなことに専念させてもらっている幸せを実感しています。苦しいことを乗り越えた先に、一皮向けた自分があることを想像するのも楽しいんです。

――高梨選手は心の底からジャンプ競技を楽しんでいるんですね。

ジャンプが好きだという気持ちだけで突き進んできたような選手なので、競技のことをいつも考えています。ジャンプの感覚は地上では味わえない浮力感やスピード感があるので、ぜひ体験してもらいたいと思います。ラージヒルですと90何キロといったスピードが出ています。それは体験してもらわないと実感が湧かないでしょう。

――後に続く選手が生まれることを期待したいですね。

ジャンプの競技人口がもっと増えてほしいと思っていますので、その魅力を伝えていきたいですね。ただ私ができることは限られています。

メディアの方の力を借りないといけないことで、自分の言葉で今はどうだったのか、ジャンプの魅力をしっかりと伝えられればと思います。ジャンプはスピード感と浮力感が魅力なんです。

## 学生生活を楽しまつつ、競技にすべてをかける

――いくつかの選択肢がある中で、日体大を選んだ理由を教えてください。

大学には行きたかったですし、中でもスポーツに最も理解があるのは日体大です。今までずっと競技の中で生活してきたので、その世界しかりません。大学に行くことによって、アスリートはもちろんさまざまな学生に触れ合うことができ、今までの自分の考え方や世界観がもっと広がって、奥行きのあるものになると思います。

――具体的に考え方の奥行きは広がりましたか？

自分の知らなかったことや、自分の競技では当たり前だったことがほかの競技では別の原理で成り立っていることなど、細かい部分から根本的なことが勉強できています。また、友達と話している中で団体競技や個人競技の成り立ちや考え方の違いを学んでいます。

――個人競技と団体競技の考え方の違いとは？

団体競技はチームワークがすごく大事です。集団の中で気持ちの整理の仕方、相手にどうすれば自分の考え方を簡潔に伝えられるかなど、そういうことを考えるきっかけができて勉強になっています。ただ個人競技でもジャンプ台で私が飛べるということは、ジャンプ台を整備してくださる方々や大会を運営する役員の方々のおかげで成り立っています。個人競技は孤独な戦いとよく言われるのですが、全くそんなことはありません。会場を作ってくくださる方々がいる中で自分が飛べる幸せをすごく感じています。

――日体大には17歳で飛び級入学されました。先ほども「沙羅ちゃんだ!」と言われていましたが、大学では下の名前前で呼ばれることが多いのですか？

下の名前でもらえとすごく安心します。入学した当時はお姉さんばかりで不安でしたが、みなさん優しくしてくれました。「沙羅ちゃん、こっちだよ」と教室を案内してくれたり、「次はどこに行くの?」と声をかけてもらったりしたことで安心しました。みんなフレンドリーですし、居心地が良いです。

――大学生活で楽しいと思う瞬間は？

みんな社交的ですし、コミュニケーション能力も高いので、年上の方を友達と言っているのかは分かりませんが、友達もたくさんいます。一緒に昼ごはんを食べたり、授業で分からないことを教えてもらうこともあります。競技に関係なく、そんな何気ないやりとりが楽しいです。

――入学した当時の感想は？

日体大にはいろいろな競技の方々がいます。体格もまったく違う人がいますし、衝撃を受けました。あとは知らない人から気軽に話しかけられることもあり、それも体育会系らしいノリの良さだと思っています。

――入学から1年3カ月ほどが経ちます。その中で特に興味をもった科目は？

1年目は実技が多かったです。陸上もやりましたし、ハンドボール、水泳、ソフトボールもやりました。ハードルは苦手なのですが、最後まで飛べるようになりました。走るのも決して速くないんです。私はスポーツ全般が得意というわけではありませんが、授業を受けることで、もっと簡単にできる方法であったり、そのほかの競技の魅力やルールも知ることができました。

――今後のキャリアデザインはどのように描いていますか？

今は競技のことしか考えていません。(引退は)想像できないですね。身体がもつまでは、身体が自分の思うとおりに動くまでは、競技を続けたいと思っています。自分の頭で考えていることを体にリンクさせるのは結構大変なことですが、それができるまでは頑張りたいです。その後のことは考えていません。今はジャンプ競技を極めることだけを考えています。

## スキージャンプは私のすべて

プレッシャーというよりは、やはり自分の問題です。次こそは良い結果を残せるように、何が悪かったのか原因を突き止めることが非常に大事なので、今後は何をしなければいいかその計画を立てています。

――高梨選手は小さい頃から注目を集めてきた存在でしたが、そもそもジャンプ競技はいつ始めたのですか？

父(寛也さん)と兄(寛大さん)の影響で8

# 老舗の菓子小売・問屋を舞台に、独自の経営観でビジネスを展開。 日体大アメフト部での経験が、人として、経営者としての原点になった。

上野・アメ横、東京スカイツリー内のソラマチをはじめ、首都圏に店舗を展開する「二木の菓子」。二木氏の著書のタイトル『なぜ20円のチョコでビルが建つのか?』が象徴するように、世間一般に常識と考えられている経営理論を徹底して自社の枠組に落とし込み、独自の経営観を構築して成功を納めてきた。本質を見ることが、自分の体験を信じることに、その根底にあることは、すべて日体大時代に培ったという。スポーツの経験がビジネスとどう結びつくか。二木氏の話聞いて将来の視野を広げたい。

## 日体大で学んだのは 「本質」を見極める大切さ

子どもが10円玉、100円玉を握りしめて楽しそうに菓子を買いに行く。受験生が勉強の合間にチョコを手にする。残業中、会議中のちょっとしたブレイクに菓子があることによって、場が和む。菓子は嗜好品と言われますが、私は生活の必需品であると思っています。東日本大震災の時に被災地に菓子を送り、大変喜んでいただいたことがありました。菓子によって人の心がいつそう豊かになるといいます。新たにした経験です。

家業である昭和22年設立の菓子小売・問屋業「二木の菓子」で専務取締役として経営に携わる一方、最近ではコンサルティング会社を立ち上げ、執筆活動やさまざまな企業・団体の皆様に対して講演をさせていただいています。

経営の立場では、現場の管理はもろんのこと、5年後10年後の売上につながるビジョンの構築に力を注いでいます。

スポーツでは、自分たちの戦力を相手の特徴や状況にいかにあてはめていくかが重要です。経営も自社の資源をいかに市場にマッチさせていくかが重要であり、まったく同じだと思います。日体大アメフト部での経験がさまざまな局面で活かされていることは言うまでもありません。

卒業後、当時監督だった藤野雅博さん(現在大学



活躍する

# OB

株式会社二木  
専務取締役

二木 英一氏

## INTERVIEW

事務局長)にご挨拶に行った時に印象に残る言葉をいただきました。「仕事は表面に見えているものだけではない」と。そして、学生時代の記憶があらためてよみがえってきました。

学生時代、私がキャプテンに指名された時、藤野さんは「どうしてお前をキャプテンにしたか分かるか」と問われました。特にリーダーシップを備えた自覚はありませんでしたから、率直に「わかりません」と答えました。その時、藤野さんは「お前は将来、人の上に立たなければいけない立場だから、監督と選手の間にはさまれている人間の気持ちかわからなければいけない。また、いろいろな経験もしなければいけないからキャプテンにしたいんだ」とおっしゃったのです。

一般的に考えると、監督の仕事はチームを勝たせて大学の名声を上げることです。しかし、藤野さんはもっと本質的なところ、人を育てるということをしつかり見据えてチームの運営に注力していらっしやいました。

社会に出てから藤野さんを再訪して、その言葉の重みをいっそう自覚することになります。勝ち負けといった表面的なこと、経営で言えばただ売ることだけを考えていけばいいのではないのです。その教えがあったからこそ、5年後10年後を考えて社業に励むようになったと思います。

## スポーツで培った体験主義で 大手の消耗戦に挑む

経営とスポーツの共通項はまだあります。多くの経営者が他社との差別化を強く意識していますが、実際はほとんど同じようなことをやっているのが現実です。二木の菓子はいわば中小企業ですから、当然大手と同じような戦い方は適しません。アメフトは、怪我人が多く出てしまったため消耗戦を嫌います。大手が価格競争をするのは資本力を持つているからこそできる消耗戦で、中小企業はそれにどこまで耐えられるか日々苦しい戦いを強いられているわけです。私が身の丈にあった独自の経営理論を展開することができたのも、アメフトを経験したおかげだと思っています。スポーツは理屈では解決できないイレギュラーな場面が多々あります。日体大の徹底した現場主義、体験主義を通して鍛えられてきた結果、自分の経験から得たことを信じる大切さを身にしみて感じるようになったのです。

もちろんマーケティングの理論は使いますが、それに頼り過ぎることなく、すべて自分の経験に落とし込んで考えるようにしています。たとえば、大手は経営の効率化に腐心していますが、私の会社でそれを進めたら非常に危険な状況に陥ったことがあります。大手コンサルタントの助言で効率化を進めたところ、3つのことが失われました。「仕事に対する当事者意識」「商品に対する当事者意識」「販売促進の技術、ものを売り切る技術」です。まさに大手が仕掛けた消耗戦の術中にはまってしまった思いがしました。

そこで、自分の経験、つまり自社の身の丈に落とし込んで、まず非効率と思われる仕事をあぶり出して、将来的に効率化するかどうかをマトリックスに整理しました。自社の唯一性を消費者に理解してもらうということが判断の基準です。

商品調達では現場で話を聴いて売り方がわかるまでコミュニケーションを深める。売り切る技術も時間をかけて習得させる。現場で効果的に商品を演出



二木 英一(ふたつぎ えいいち)／2002年、体育学部卒業。食品(菓子)商社サンエス(現・三菱食品)を経て、2004年に家業の株式会社二木「二木の菓子」を継ぐ。現場・バイヤー・商品開発に携わり、経営の中枢として活躍する。日本メンタルヘルス協会公認カウンセラーや内閣府公認産業心理カウンセラー、日本交渉学会認定2級交渉アナリストなどの資格も有し、自身の経営理論をもとに中小企業・小売業を対象とした経営コンサルティング活動も展開している。著書多数。

するために陳列の技術を身につける。この3点についてはどんなに時間がかかっても非効率であろうとも徹底してやろうと社員たちに話しています。それによつて、現場の意識も変わってきました。これは、大いに真似できない、経験から生み出されたノウハウで、二木の菓子の命です。

## 社会に出て感じる日体大の真の強さ

私の経験をもとに、講演のオフアワーを多くいただいています。講師の人選にあたってはコンペがあります。大学教授、東大や早稲田慶應出身の経営者、コンサルタントの方々の中に入つて、なぜかほとんど私が選ばれてしまう(笑)。日体大でなにをやったのか、アメフトの経験が経営にどのように活かされているのか。ビジネス界の方々にとつて、私は未知数で興味津々なのです。いろいろな先生を呼んだが同じような話だった、あなたの話は初めて聞

いたというお声をよく聞きます。

そのことから、学生のみなさんにはいま取り組んでいるスポーツや活動にぜひ自信を持つてほしいと思います。そして、申し上げたいのは、自己投資を続けるということです。私自身、本をひたすら読み続けたり、興味を持った経営者の方のお話を聞きに行ったりして勉強を続けています。特に実体験、苦勞談を語った経営者の話は、独自の経営観に加えて人間的な奥行の深さを感じて、強く惹かれます。いまは将来を見据えて、ASEAN市場の展開についての本などを読んでいます。

いまはともよかったと思いますが、学生時代は正直辛いことばかりだったように思います。アメフトに没頭して、しっかり勉強したかと言われると自信はありません。確かにいまやっていることが、そのまま社会に出て使えるかと言えば、必ずしもそうではないでしょう。みんな同じことを学んでいて、同じスタートラインに立つことになりました。そこで、学ん

だことに自分の経験をプラスして、あるいは自己投資を続けて、オリジナリティをどうつくっていくか、個人を差別化するかということが極めて重要で。経営者の立場で言えば、会社が社員にお金を払うのは、あたりまえの仕事をしてもらう代償ではなく、なにか人と違うものを持っていることに対して価値を見出すからです。自分らしきをつくりあげていく上で、結果が出るのは、おそらく10年ぐらいい先になります。その意味で、自分の価値を判断できるようになる前に、早々に諦めて辞めしてしまうことは絶対に避けてほしいと思います。

もう一つ、日体大ブランドと言えば、スポーツを通して培った人との関係づくりの経験です。経営者のほとんどは、人とうまく付き合っているかということを見えています。学歴以上に重視しているといつても過言ではありません。ちゃんと人と話ができる人の話が聞けない人は論外です。

アメフトは個性豊かな人が多かったですし、いろいろな人と関わってきたことで、人が好きになったということは実感しています。自分が相手を好きになる努力をしたら、相手も自分のことを好きになってくれます。経営者も、現場のビジネスマンも人脈は財産です。1人の仕事で100万円稼ぐのではなく、1人が5人10人を育てて、その5人10人が50万円ずつ稼ぐ。単に仕事ができるということ以上に、そういう力や広がりを持った人を社員に迎えたいと思いますし、社会に出るみなさんにも人間的な幅を身につけることを期待しています。

繰り返しますが、みなさんが思っている以上に、日体大のブランド力は偉大です。日体大で学び、アメフト部で活動できたことを心から感謝しています。みなさんも日体生であることに自信と誇りを持つてください。可能性を狭めず、自己投資を続けて、社会にとつても、自分にとつても豊かな未来を、一緒につくりあげていきましょう。

# 未経験から、一念発起して24歳でプロのボートレーサーに。 今からでも、誰にでも平等にチャンスがあるのがボートレースの魅力。

日体大卒業後、アルバイトやスキーマスターのインストラクターをしながら自分の将来を模索していたという島田選手。それが今、観衆の声援を受け、巧みにレースを運ぶプロのボートレーサーとして活躍する。選手は約1,600名在籍し、そのうち約200名が女性。さまざまなスポーツを経験した人たちがボートレースの世界の門を叩いているという。陸上とスキーマスターの経験、そして教員を目指して努力した学生時代と、競技や進路に悩んだ末に立つことができたプロの舞台。島田選手の話は、誰もが可能性を秘めていることを証明している。

## 女性でも小柄でも 互角に戦える実力の世界

風を切って颯爽と水面を跳ぶボートレース。レースは男女混合で競い、しかも軽量級が有利という性別や体格の差のない実力の世界。ボートレースは異色の競技と言えます。

レースに出場するのは基本的に月2回。1回のレースは6〜7日間行われます。初日の前日(前検日)に集合し、モーターとボートが抽選によって割り当てられて、選手はレースの準備を行います。モーターやボートを自分で調整し、状態によっては分解して一から組み立て直すこともあります。そして、前検日の夕方に出場するレースが決まります。

1回のレースに登録する選手はあわせて50人ほどです。さまざまな組み合わせで対戦する中で、得点率上位者が準優勝戦や最終日の優勝戦に進んでいくことになります。勝負の世界ですからもちろん勝つことが前提ですが、私のような経験の浅い選手でも普通のサラリーマンと比べて全く遜色のない年収を得ることができますし、(平均年収は約1,600万円)トップレーサーは年収2億円以上稼ぐ人もいます。得点率によってA1、A2、B1、B2の4つのランクに分かれ、半年ごとにランクの見直しがあります。今は自分のランクを上げて、ゆくゆくはSG(スペシャルグレード)やGIなどのレースに出場することが目標です。



## 活躍する OG ボートレーサー 島田なぎさ 選手 INTERVIEW

私が、初めて一着になったのは86走目でした。ボートレースの世界では「初物」(初めての体験)の時には「水神祭」の洗礼を受けます。水に飛び込む、正しく言えば後輩たちに自分の体を水に投げ込んでもらう儀式です。手荒い祝福を受けて(笑)、本当に嬉しかったことを覚えています。

1レースは3周(1周600m×3＝1,800m)、約2分というまさにあつという間の戦いです。スタートを制するとレース展開を有利に運ぶことができますから、大時計の動きや風や波を計算し、全神経をスタートの瞬間に集中させます。6人の選手で競いますが、女性は私だけということも珍しくありません。一般に、女性は体重が軽いため有利と言われていますが、コーナーでのターン技術は男性のほうが優れているようです。良いレース運びをして前に出た時は「よっしゃー」と叫びたくなるぐらいの快感です。私は負けず嫌いですから、徹底的に勝ちにこだわりたいと思っています。

## 普通の日体生が ビッグチャンスを目指すプロ選手に

私とボートレースとの出会いは運命的と言えるかもしれません。実はボートに乗ったのも、ボートレーサー試験を受けた時が初めてだったのです。それだけ誰にでもチャンスのある世界であることをお話しておきたいと思っています。

私は教員になりたくて日体大に入学しました。高校までは陸上部で走り幅跳びをやっていましたが、日体大では基礎スキー研究会を選びました。強豪揃いの本格的な部活に少し尻込みしてしまっただけもありましたが、自分も楽しみながらインストラクターもできるスキーに魅力を感じたことが理由です。

教育実習も楽しく参加しましたが、教員は教える以外にもさまざまな仕事があることを知り、体を動かしていないと気がすまない自分に果たして向いているのだろうか疑問を持ってしまいました。そんなことがあつて、卒業後1年間ほど、夏はアルパイト、冬はスキーのインストラクターをしながら、自分探しのようなことをしていました。

ボートレーサーを目指したきっかけは、ボートレーサー募集のTVCMを見たことです。もちろん未知の世界でした。接点と言えば、趣味でレーシングカートに乗ることが好きだったこと。男性と互角に戦うようなレースという世界で仕事ができることに惹かれました。

プロのボートレーサーになるためには、まず試験に合格し、福岡県柳川市にある「やまと学校」で1年間訓練を受け、進級・卒業などの試験やボートレーサーの資格検定試験(国家資格)にパスする必要があります。入校試験は受験者が1,600人ほどで倍率は約40倍。選考内容は学科試験・体力測定・適性検査・身長及び体重測定など。日体大出身者であることや、スキーやカートの経験があったことが有利に働いたのか、スポーツ推薦枠で受験することができました。

試験の倍率は高いですし、やまと学校の訓練でもデビューしてからも厳しく自分を律して鍛えていくことが必要なのは確かですが、日体大で学んでいる皆さんにとっては当然のことでしょう。師匠と弟子のような上下関係のもと、自分のレースの準備をするよりも先に、先輩方が使うエンジンをボートに乗せたり出走できるように整えなくてはなりません。

私自身、そういう環境はまったく苦になりませんし、覚悟をもってこの世界に飛び込むことができました。



島田 なぎさ(しまだ なぎさ)／2010年、体育学部体育学科卒業。基礎スキー研究会所属。2011年にスキーのインストラクターを務める傍ら、プロのボートレーサーを募集するTVCMを見て一念発起。試験を経てプロのボートレーサーを養成する福岡県柳川市にある「やまと学校」に入学。卒業後、2012年9月にプロのボートレーサーとして登録された。初出走は2012年11月16日開催の戸田・一般競走。初一着は2013年11月8日開催の平和島・タイトルで、本人にとってプロ86走目だった。2014年の年収は約720万円。

のもこれまでのスポーツの経験や日体大で学んだおかげだと思っています。

なにより、日体大時代に目立ったアスリートではなかった私が、プロとしてスポーツを続けているのです。部活動で活躍していても、今は就職したり家庭に入ったりして本格的なスポーツから離れている人もいるでしょう。

ボートレーサーの一番の魅力は、未経験者でも始められることです。それが、野球やサッカーなど、他の競技との大きな違いです。むしろ部活動をやっていなかった選手のほうが多いほどです。基本的な条件(15歳以上30歳未満、身長175cm以下など)さえクリアしていれば経験不問。学歴・職歴・国籍も関係ありませんし、女性も平等にチャレンジできます。

ボンとこの世界に飛び込んで、フラットな立場から賞金王を目指すチャンスがあるのです。日体大でレギュラーとしては活躍できなかったけれど、新しいスポーツで勝負してみたいという人は、ぜひ挑戦し

てほしいと思います。

## プロだからこそ求められる 厳しい自覚

やまと学校は全寮制。朝6時に起床して3分を着替えて布団をたたみ、外に出て点呼を受けなければいけません。夕方まで授業を受け、消灯は22時です。月1日外出日がありますが、実家に帰ることはできませんでした。

授業では、ボートの操縦から、学科、整備メンテナンス、ボートレーシングまで1年間かけてみっちり学びます。班別試験や進級試験、リーグ戦競走(模擬レース)、卒業試験、資格検定試験などプロデビューするまでに7～8回の試験があります。中には脱落してしまう人がいるのも事実です。

学校では、飲酒、携帯電話やゲーム機などの私物の持ち込みは禁止。プロになつてからもレース開催

中は選手宿舎で過ごしますが、規律は同じで、外部との連絡はとれないようになっていきます。

もちろん学校では、食事時間や夜の自由時間、土日や夏期・正月の休みなどリフレッシュできる機会がありますが、このような厳しい規律があるのはなぜでしょうか。

ボートレースは地方自治体が開催する公営競技です。お客様に舟券(勝舟投票券)を買っていただくことで成り立っている競技であり、その収益の一部は地方自治体を通して社会に還元されています。プロ選手として真摯に戦いレースの公正さを担保すると同時に、公共性の高い公営競技を担う一員としての自覚が求められるのです。前検日に遅刻をすればレースに出場できないことはもちろん、ペナルティーを課せられます。当然、約80キロのスピードで滑走するボートレースでは危険性も伴います。このような環境で、プロとしても「公人」としても自信と誇りをもつて行動するためには、厳しい規律があるのも当然でしょう。

レース前にオッズを確認する時は身が引き締まる思いがします。私の舟券を買っていただいているかどうか一喜一憂しますが、私に期待してくださるファンの方々の思いを常に背負ってレースに臨んでいます。まさに、私がプロであることを自覚する瞬間です。勝てば嬉しいのは当然ですが、それ以上に期待に応えることができたと安堵の気持ちでいっぱいになります。

24歳で飛び込んだ世界。ボートレーサーの平均年齢は36・6歳、平均在籍年数は29年というデータもあります。他の競技に比べて現役期間が際立って長いのが特徴です。若手にもベテランにも活躍の場があります。私はまだ人生というレースを走り始めたばかりです。ボートレースという競技に出会えたこと、そしてなによりもプロとしてスポーツに関わり続けていられることを心より感謝しています。

Q1

## 子どものからだの二極化現象とはどういうことでしょうか？

一言で言えば、この20、30年の間に子ども  
のからだの二極化現象が進展しています。

二極化現象とは、現代の子どもは運動不  
足の子とも幼いころから特定のスポーツ  
の専門的訓練を受けてきた運動過多の子  
どもに大別されることで、運動不足の子  
どもには運動器機能不全（いわゆる「からだ  
の固い子」が生じ、運動過多の子どもには  
多くのスポーツ障害が生じるようになった  
現象のことを指します。

現代の子どもは体格こそ良くなりました  
が、体力は低下しているという認識が一般  
的になってきていると思います。栄養事情  
の改善により、現代の子どもの体格は保護  
者の同時期のそれを上回る状況が続いて  
いるものの、その一方で体力・運動能力は体

格の向上に見合った形で必ずしも改善され  
ていません。

その原因は現代の子どもを取り巻く社  
会環境の変化による遊びと生活習慣の変  
化に集約されています。科学技術の進展で  
子どもの生活面と遊び方は劇的に変化し  
てきました。生活環境は極めて便利にな  
り、自然とからだを使う機会と時間は減っ  
てきています。それと並行して、子どもの  
遊び方も様変わりし、鬼ごっこや缶蹴りな  
どの外での集団遊びをする姿をほとんど見  
かけなくなり、現代の子どもの遊びの主体  
はテレビゲームになりました。実際に、子  
どもたちが月々金曜日にテレビゲームで遊  
ぶ時間を調査した結果によると、1日4  
時間以上テレビゲームに興じる子どもは10

人に1人、1日1時間以上の割合は、2  
人に1人というデータが出ています。

その一方で運動する子どもたちの現状  
は、幼いころからある特定のスポーツチー  
ムに入り、大人の指導者の下で、連日長  
時間にわたって早い時期からその種目に限  
定した専門的なトレーニングに励む形が広  
がっています。平成25年の調査では、子ど  
もの1週間あたりの総運動時間は、60分  
未満の児童が男子9.1%、女子21.0%と  
いうデータが出ており、1週間で420分  
未満（1日あたり60分）の子どもと420  
分以上の子どもで体力や運動能力の差が  
著しい二極化現象が指摘されています。

日体生なら  
知っておきたい！

## スポーツ・健康 ワンポイントゼミ



### 【プロフィール】

武藤芳照（むとう・よしてる）

（日体大総合研究所長／保健医療学部教授）

名古屋大学医学部卒。東京大学大学院教授、同教  
育学研究科長・教育学部長を経て2011年東京大  
学理事・副学長、2012年東京大学名誉教授、2013  
年4月より日体大総合研究所所長。2014年4月日本  
体育大学保健医療学部教授。医学博士。『子どもの  
スポーツ』『運動療法ガイド』をはじめ、スポーツ医  
学、身体教育学、運動処方関係の著書多数。

### 第1回テーマ

## いま子どものからだに 何が起きているのか(1)

日体大が誇る体育・スポーツ・健康・教育の専門家が身近な話題を取り上げてわかりやすく解説するコーナーです。  
今回は、日体大総合研究所長で保健医療学部教授の武藤芳照先生が、子どものからだの“いま”について語ります。  
運動しない子どもも運動し過ぎる子どもも驚くべきリスクがあることが明らかに…。

## 運動不足の子どもは、どのような現状なのでしょうか？

例えば薬を処方される場合、患者の年齢や体重、症状に合わせて薬の種類や量を選んでいくことになります。運動の観点では、「運動処方」という言葉に置き換えられます。その考え方に基づくと、子どもの年齢による成長・発達段階や状況に応じて、運動する時間、強度、頻度は決まってくるもので、運動不足の子どもは運動の質と量に問題を抱えていることとなります。その結果、本来ならもっと発達すべきからだの機能が十分に発達しないために「現代の子のからだ異変」と呼ばれるような様々なおかしい現象が起きています。

運動不足の子どもに生じる運動器機能

不全の具体例としては、小学生なのにまるで五十肩であるかのようにバンザイしても両肩が上がらない、体を前方に曲げると床につかない、しゃがむことができずに後ろに転んでしまうなど、日々の暮らしの中で身につくはずの動作ができないといった現状が報告されています。

科学技術の発達により、例えば水道の蛇口が指でひねる形のものではなく、プッシュ型の蛇口や、人感センサー式の玄関のドアが普及することで、ますます現代の子どもはからだを使わなくても済むような環境で生活することになります。指をしかりと使った暮らしや遊びを幼いころから

してこなかったり、学ぶチャンスや多様な動きをする機会がないために、握力が低下し、ボールを投げる動作ができない、箸やペンをうまく持てない、持ち方がおかしいといった子どもたちが増えているのです。

さらに言えば、運動不足によって、小児生活習慣病とされている子どもの肥満や高血圧、高脂血症などで病院の小児科に通う子どももいます。日常の変化から、こうした病気の大人化現象とも言える本格的な病気に至るまで、それらの原因は運動不足に起因しています。

## 運動過多の子どもにはどのような影響が起るのでしょうか？

運動過多の原因は、大人の指導者が関わるケースが多いです。子どもには子どもに対する教え方があるのに、教え過ぎ、鍛え過ぎによって、スポーツ本来の意味である『他に心を移して楽しむもの』という価値を見失っています。スポーツのあり方とは、子どもたちにとって、面白い、楽しい、またやりたいという感情が生まれることだと思いますが、やり過ぎることですスポーツが苦しくて、ツライものになってしまいうこともあります。『練習に行かないと監督に怒られるから練習に行く』とか、『お父さん、お母さんが行けと言うから練習に行くんだ』といった負担を感じさせてまでスポーツをやらせることが良いとは言えませ

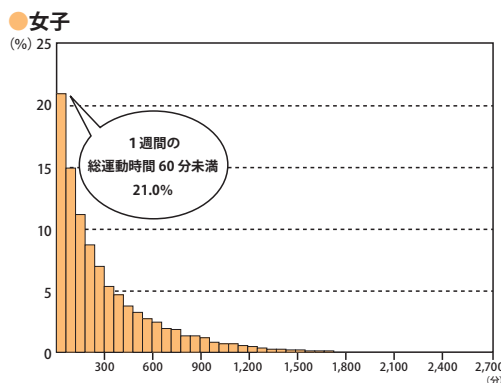
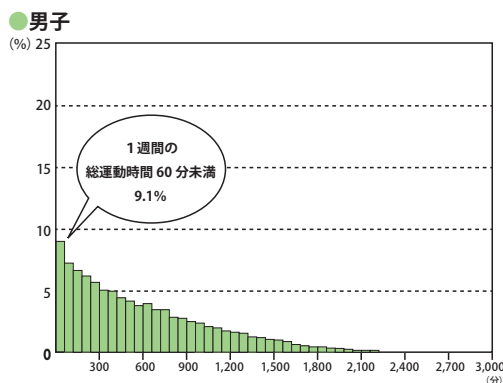
ん。場合によっては、からだの痛みや、心のひずみ、さらには普段の生活や勉強などに対する意欲喪失につながってしまう可能性もあります。

またからだへの影響という意味では、ある特定のスポーツのトレーニングを多くやり過ぎること、からだの成長の元である成長軟骨を傷つけてしまうことにもつながりかねません。「成長の元」とも言うべき軟骨を傷付けることでからだの発育が止まってしまうます。子どもは成長過程で、約350個の骨が206個になるぐらいからだの変化が激しく、だからこそ「子どもは軟骨人間」と言われるのです。運動の量が少な過ぎると効果はないですが、運

動過多に陥っても弊害が生まれるのです。

ですから、指導者や保護者、そして子どもたち自身が運動過多による影響を知ることが重要でしょう。日体大生の多くは将来的に教員や指導者、健康・スポーツ関係者になるのですから、子どもたちにもスポーツの楽しさや面白さを伝えるのと同じに、無理な練習をすれば健康を害して、精神面や人間性を阻害する可能性もあることを十分に理解する必要があります。運動過多がどのような影響を及ぼすのか、それを学ぶカリキュラムを日体大の身体教育の中に組み込むべきだと思います。次回は、子どもからだの二極化現象に対する具体的な対策について、お話しします。

1週間の総運動時間の分布(小学校)



(文部科学省「平成25年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果」より)

チンロンを通して、ミャンマーの人々の精神や文化を探究。もっとわかりあえる世界を築くため、一つのスポーツに打ち込んだ情熱を活かしてほしい。

スポーツ人類学は、スポーツを文化と捉え、これに関わる人々の思考や行動の本質を明らかにしていく学問である。世界中の国や地域において行われているスポーツはさまざま、研究のフィールドも多彩だ。スポーツは世界共通の文化であるという理解のもと、グローバル社会では相互理解、交流がますます重要になる。スポーツを通じた社会貢献を進める上でスポーツ人類学は格好の領域であり、一つの競技に打ち込んできた「才能」を学問の世界でもぜひ発揮してほしいと石井教授は話す。

## 体育科学をリードする

～大学院・研究科の取り組み～

7

● 体育科学研究科

博士後期課程

スポーツ文化・社会科学系

博士前期課程

体育科学コース スポーツ文化・社会科学系



### 石井隆憲 教授

石井隆憲（いしいたかのり）北海道出身。保健医療学部救急医療学科教授。体育学部武道学科、大学院体育科学研究科修士課程修了。博士（社会学）。東洋大学社会学部、同大学ライフデザイン学部教授を経て現職。専門はスポーツ人類学。座右の銘は「学ぶとは、いかに自らが知らざるかを知ること」。旺盛な探究心、行動力で研究や教育に取り組む。

#### 縁と偶然に導かれて

先生の研究テーマとそれを選んだ経緯を教えてください。

私の専門はスポーツ人類学で、フィールドはミャンマーです。ミャンマーの伝統的なスポーツをおもなテーマに、ミャンマーの諸民族のスポーツ、あるいはミャンマーという国家のスポーツの運営のあり方などについて調査・研究しています。

みなさんは、「チンロン」と呼ばれるスポーツをご存知ですか？日本の蹴鞠（けまり）のようなもので、藤（とう）でできた球を6人で円陣を組んで蹴るものです。ミャンマーでいわば国技として親しまれています。特にこの研究をメインに続けています。

私とミャンマーとの出会いは、さまざまな人との出会いや偶然に導かれたようなものでした。ミャンマーとの交流は20年近くになります。当時の前任校でミャンマーの大使が講演する機会があり、その際に研究者を派遣してほしいという要請を受け、私が打診を受けたのが最初のきっかけです。ちょうど学位論文を提出し、取り組んでいた研究の区切りがついたところだったので、お引き受けることにしました。

人類学の領域を選んだ理由はなんでしょう。

日体大の頃は武道について研究していました。さまざまな国や民族があつて、そこにはさまざまなスポーツがあります。それを調査・研究できる領域があることを知り、とても興味をもちました。いわゆる文化人類学の一領域ですが、当時はまだスポーツ人類学という学問は明確に確立されていない時代です。文化人類学、社会人類学を専門とされておられた諸先生方との出会いを通して、自分の専門が徐々に明確になっていきました。

#### 思いやりの心、おもてなしの競技

ミャンマーという国の印象はいかがでしょう。

私が最初にミャンマーを訪れたのは1997年です。その後、1999〜2000年と2004年〜2005年の2回、現地に1年間滞在して長期調査をおこないました。大学に戻ってから、夏・冬の休みごとに、年間2〜3ヶ月はミャンマーで調査する生

活が続きまして。

ミャンマーでは、道端で困っている人がいればすぐ声をかけたり、重いものを持っている人がいれば手助けしたり、心優しい人がたくさんいます。古き良き日本人と共通する心情や感性が残っているような気がします。その心の支えになっているのは、仏教の精神ではないでしょうか。ミャンマーは仏教国で、8割が仏教徒。徳を積む、人を思いやるといった精神が、生活やスポーツに反映されていると思います。

—— チンロンはどういう特徴のスポーツでしょうか。

仏塔（パゴダ）のお祭りの時に、参詣のお客さんをもてなすために行うパフォーマンスという意味合いを持っていました。一方で、1947年にミャンマーにオリンピック委員会が設立され、チンロン連盟も1953年に設立され、ルールが整備され、競技として行われるようになっていきます。今でも、日本でのサッカーや野球のように、子どもから大人まで日常的に親しんでいます。

—— どうしてチンロンを研究対象に選んだのでしょうか。

フィールドワークという手法は現場に自ら参加・経験し観察するものです。特にスポーツの場合は、実践しないとわからないことがたくさんあり、研究に行き詰まりが出てしまいます。私はもともとラウェイというミャンマーのボクシング（バンテージだけ巻いて素手で戦う）を研究していましたが、正直なところこれはそう簡単にできるものではありません（笑）。そこで、自分もある程度参加できて、もう少し深く理解できるものと考え、ミャンマーでボビエラーなチンロンを選びました。

—— 具体的にはどのような研究をされているのでしょうか。

一つには、チンロンがどのように次の世代に伝承されているのかということをテーマにフィールドワークを行いました。子どもたちにチンロンを教えている先生のところに行つて、一緒に練習したり指導の様子をビデオに記録したりしました。私も先生に指



導を受け、仕事を終えた大人たちと草野球の感覚でプレーしたことも楽しい思い出です。これらの調査・研究を通して、チンロンの練習用の教材も作成しました。

もう一つ、今後の展望にもなりますが、チンロンというスポーツにおける、プレーヤーの認識や考え方を説明する方法を模索していきたいと考えています。これまでは、目に見える動きを観察したり、技術を習得したりしてきましたが、その次のステップです。

フィールドワークには実践が不可欠という話をしましたが、たとえばサッカーでも野球でも、なぜそういう動きをするのか、そういう選択をしたのかは、話を聞いただけでは理解できませんし、逆に習熟した人にとつてはあたりまえ過ぎてあらためて考えることはあまりありません。しかし、それを言語化して表現することは人類学が担う大切な役割です。チンロンの選手がなぜこの技の後にこの技を使うのか、どうしてそういう動きをするのかといった思考を再現することで、チンロンやミャンマーの人々の本質を理解できると思っています。

—— 対等に  
わかりあえるために

——

——

—— あらためて人類学を学ぶ意味とはなんでしょう。

文化的他者が実践するスポーツの思考を言語化してわかりやすく伝えることは、スポーツという営みを通して相手の人や文化の本質を理解することにつながります。誰でも説明、理解する権利があります。目に見えないものや異文化を翻訳して、日本人にわかるように伝え、あるいは日本人がまったく知らなかったことを紹介して、文化交流を深めていく。そういうアプローチが人類学なのです。

—— 当然それぞれの社会にはそれぞれの価値観があつて、自分の価値観だけで物事を見ようとすると大き

な間違いを引き起こします。それが文化摩擦であり、私たちの研究により少しでも緩和できればと考えています。

—— その上で、対等に理解するということはとても重要

です。お互いを知ろうとする、調査しようとする時、特にミャンマーのような途上国との間にはある種の力関係が存在します。日本人にはできても、逆にミャンマーの人が日本に来て相撲について研究するのは障害を伴う可能性があります。そこで、相手のことを教えてもらおうと同時に日本の中にも知ってもらう、日本人に紹介することによってさらにほかの国や地域にも理解を広げていく、お互いに対等にわかりあう、Win

Winの関係が人類学のスタン

スなものです。この点でも仏教の精神と共通項があるでしょう。あらためて、ミャンマーやチンロンとの運命的な出会いを感じます。

—— これからの抱負を教えてください。

私の使命は、これまでお話ししてきた人類学の役割を、ミャンマーやチンロンというフィールドを通して果たしていくことです。研究に加えて、昨年、日本チンロン連盟というNPO法人を立ち上げました。チンロンに関するさまざまな情報提供をしていくことが目的です。

ミャンマーではおそらく男性であればチンロンをやったことがない人はいないというスポーツです。路地で子どもたちがふつうに遊んでいる、仕事を終えた大人たちが日没から夜7時頃までちよつと二汗かく。生活の一部のようなものです。しかし、多くの学生はこの紙面を読んで初めてチンロンを知ったのではないのでしょうか。それほど、日本とミャンマーはまだ遠い国というところでしよう。チンロンというスポーツがどういうものか。それを楽しむミャンマーの人々がどういった価値観を持っているのか。もちろんチンロンだけでなくミャンマーのすべてが理解できるものではないでしょうが、日本の相撲と同様、ミャンマーの人々にとつての誇るべきスポーツに多くの人に触れて



もらいたいと願っています。

—— 一つのことを続ける才能に研究に

—— 日体生の特徴をどのように感じていらっしゃいますか。

率直な感想として、日体大の学生はすごい能力を持っていると思います。それは、一つのスポーツを続ける才能です。多くの学生がそうした経験を持っているでしょう。

一つのことを続けるということは、一般の学生にはなかなかできないことです。日体生は毎日よく練習しますし、しかも続けることがそれほど苦になつていないと思います。才能と言うと大げさに聞こえるかもしれませんが、あたりまえのように思つてそのすごさに気づいていないだけなのです。

こうした素質を備えているわけですから、それを学問の世界に少しスライドして、勉強や研究を続けていつてほしいと思います。自分がやってきたスポーツを実践するだけでなく、ちよつと違う角度から見たり、ほかの競技と比べて見たりすることによって、自分の専門のスポーツをさらに深く理解することにつながります。それが大学院で学ぶ意味でもあります。

—— 最後に学生へのメッセージをお願いします。

スポーツ人類学の領域において、スポーツの実践的な経験が有利であることは言うまでもありません。フィールドワークの現場でも、さまざまな角度から生きた情報をより多く得ることができるよう。繰り返しになりますが、スポーツをしながら勉強を続けていくという姿勢が大切です。そういう感覚、好奇心を持っている人にとつて、スポーツ人類学は最適な領域と言えます。

ただし、スポーツ人類学に限ってませんが、学問はすぐに答えが得られるというものではありません。納得のいく研究をするためには時間がかかります。しかし、一つのことを継続した経験のある人なら、やる気さえあれば必ず一定のレベルに達します。スポーツには年齢的な制約がありますが、学問は生涯現役です。自分の才能に自信を持つて、可能性を広げていつてほしいと思います。

| 団体名        | 大会名                                                      | 結果                                                                                                                                     |
|------------|----------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アーチェリー     | 第14回世界ユース選手権選考会                                          | U-20女子1位小城碧(2年)、2位遠間あずさ(2年)                                                                                                            |
|            | 関東学生アーチェリー男子リーグ戦優勝決定戦                                    | 団体優勝                                                                                                                                   |
|            | 関東学生アーチェリー女子リーグ戦優勝決定戦                                    | 団体優勝                                                                                                                                   |
|            | 2015年度第26回全日本学生アーチェリー東日本大会                               | 女子個人1位西野汐梨(3年)2位小城碧(2年)3位濱田佳奈(3年)                                                                                                      |
| ウエイトリフティング | 第12回全日本学生ウエイトリフティング選抜大会                                  | 56kg級2位佐野優図(4年)                                                                                                                        |
|            | 第61回全日本学生ウエイトリフティング個人選手県大会                               | 56kg級2位徳永亮太(2年)                                                                                                                        |
|            | 第27回全日本女子学生ウエイトリフティング選手権大会                               | 62kg級1位艾幸太(4年)                                                                                                                         |
|            |                                                          | 63kg級3位橋谷田咲月(1年)<br>75kg級3位小野田茜(2年)                                                                                                    |
| ゴルフ        | 関東大学女子春季Bブロック対抗戦                                         | 2位                                                                                                                                     |
|            | 関東大学春季Cブロック対抗戦                                           | 1位                                                                                                                                     |
| 水泳(競泳)     | 第91回日本選手権水泳競技大会                                          | 100m背泳ぎ 1位赤瀬紗也香(3年)<br>200m背泳ぎ 1位赤瀬紗也香(3年)<br>200m背泳ぎ2位川除結花(4年)<br>200m自由形 1位五十嵐千尋(2年)<br>400m自由形 1位五十嵐千尋(2年)<br>400m個人メドレー 3位藤森丈晴(4年) |
|            | 関東学生リーグ                                                  | 男子優勝<br>女子3位                                                                                                                           |
|            | ジャパンオープン2015                                             | 200m自由形2位五十嵐千尋(2年)<br>400m自由形2位五十嵐千尋(2年)<br>100m背泳ぎ2位赤瀬紗也香(3年)<br>400m個人メドレー3位藤森丈晴(4年)                                                 |
|            | 第22回卓月杯争奪水泳競技大会                                          | 50m自由形 1位関根正敏(2年)2位吉田拓海(3年)3位羽賀大記(4年)                                                                                                  |
|            |                                                          | 100m自由形 1位東原安寿(2年)2年郡司隆寿(3年)                                                                                                           |
|            |                                                          | 200m自由形 1位東原安寿(1年)2年郡司隆寿(3年)                                                                                                           |
|            |                                                          | 400m自由形 1位佐藤祐弥(3年)                                                                                                                     |
|            | 第48回三体育大学対抗水泳競技大会                                        | 1500m 自由形 1位佐藤祐弥(3年)2位南出大伸(1年)3位豊田壮(2年)                                                                                                |
|            |                                                          | 100m背泳ぎ2位村上鉄平(1年)                                                                                                                      |
|            |                                                          | 200m背泳ぎ3位村上鉄平(1年)                                                                                                                      |
|            |                                                          | 100m平泳ぎ 1位渡辺隼斗(4年)2位武良竜也(1年)                                                                                                           |
| 水泳(飛込)     | 2015年度日本室内選手権飛込競技大会                                      | 男子3m飛板 3位千歩純一(3年)                                                                                                                      |
|            | ソフトテニス男子                                                 | 平成27年度関東学生ソフトテニス春季リーグ戦<br>男子 1部3位                                                                                                      |
|            | 第22回関東学生ソフトテニスシングルス選手権大会                                 | 3位岡本光生(3年)                                                                                                                             |
|            | 第66回関東学生ソフトテニス選手権大会                                      | 男子1部3位塩田颯(3年)工藤浩輔(3年)ベア                                                                                                                |
| バスケットボール男子 | 第50回記念日本体育大学・筑波大学バスケットボール定期戦                             | VS筑波大学●59-82                                                                                                                           |
|            | 第64回関東大学バスケットボール選手権大会                                    | ベスト32<br>VS文教大学○82-74<br>VS青山学院大学●54-82                                                                                                |
|            |                                                          | 6位<br>1回戦VS埼玉工業大学○63-53<br>2回戦VS国士舘大学○75-49<br>準々決勝VS筑波大学●69-96<br>順位決定戦VS慶應義塾大学○70-64<br>5位・6位決定戦VS青山学院大学●65-81                       |
|            | 関東大学バスケットボール新人戦                                          |                                                                                                                                        |
| バスケットボール女子 | 第50回記念日本体育大学・筑波大学バスケットボール定期戦                             | 優勝                                                                                                                                     |
| トライアスロン    | 第8回日本学生スプリングトライアスロン選手権渡良瀬大会<br>兼<br>2015全日本大学トライアスロン選抜大会 | 学生選抜男子2位小田倉真(4年)4位藤沼勇輝(4年)<br>学生選抜女子1位岸本新菜(2年)3位孫崎虹奈(3年)6位甘糟恵美<br>学生選抜団体男子1位<br>学生選抜男子女子1位                                             |
|            | アジアトライアスロン選手権(2015/ニュータイペイ)                              | U23女子6位岸本新菜(2年)<br>U23男子10位小田倉真(4年)                                                                                                    |
|            |                                                          |                                                                                                                                        |
| バドミントン     | 2015年度関東大学バドミントン春季リーグ戦                                   | 男子団体3位<br>女子団体5位                                                                                                                       |
|            | バドミントンニュージーランドオープン2015                                   | 男子ダブルスベスト16三浦光将(3年)松居圭一郎(3年)                                                                                                           |
|            | 日本ランキングサーキット大会                                           | 男子ダブルス18位三浦光将(3年)松居圭一郎(3年)<br>ミックスダブルスベスト8松居圭一郎(3年)                                                                                    |
| バレーボール男子   | 2015年度春季関東大学バレーボールリーグ戦                                   | 6人制バレーボール10位                                                                                                                           |
| フェンシング     | 第11回剛騎杯フェンシング選手権大会                                       | 女子フルーレ3年井戸美咲(2年)                                                                                                                       |
| ボート        | 中日本レガッタ                                                  | 成年女子ダブルスカル1位高橋かほ(2年)、川本藍(4年)                                                                                                           |



| 団体名         | 大会名                                                                      | 結果                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|-------------|--------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ライフセービング    | 第28回全日本ブール競技選手権大会                                                        | 4×50m障害物リレー1位北原由美子(2年) 原田果菜子(2年) 寺坂恵(3年) 坂本佳風子(3年)<br>4×50mメドレーリレー3位原田果菜子(2年) 寺坂恵(3年) 坂本佳風子(3年) 飯田亜実(4年)<br>100mマネキンキャリーウィズフィン2位幡野圭祐(3年)<br>100mレスキューメドレー(男子)3位幡野圭祐(3年)<br>100mレスキューメドレー(女子)3位寺坂恵(3年)<br>50mマネキンキャリー(女子)1位坂本佳風子(3年)<br>50mマネキンキャリー(男子)3位坂本陸(4年)<br>200mスーパーライフセーバー(女子)2位坂本佳風子(3年)<br>200mスーパーライフセーバー(男子)2位坂本陸(4年)<br>4×25mマネキンリレー1位寺坂恵(3年) 鈴木理乃(3年) 井熊理子(3年) 坂本佳風子(3年)<br>ラインスロー2位小椋隆継(4年) 大竹達士(4年)                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|             | 第28回全日本種目別選手権大会                                                          | ビーチスプリント(男子)2位七海元紀(3年)<br>ビーチスプリント(女子)1位長野文音(3年)<br>サーフレース(女子)3位坂本佳風子(3年)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| ラグビー女子      | 太陽生命ウィメンズセブンズシリーズ2015横浜大会                                                | 5位                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|             | 大学女子7人制ラグビーフットボール交流大会                                                    | 1位                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 陸上競技        | 第51回四大学対校陸上競技会                                                           | 男子100m3位関卓哉(4年)<br>男子200m1位川瀬孝則(3年)<br>男子800m3位森田祐輝(4年)<br>男子1000m1位奥野翔弥(4年) 3位勝亦祐太(4年)<br>男子400mH3位鈴木勇人(3年)<br>男子3000mSC3位小野木俊(3年)<br>男子4×100mR2位近藤旭(2年) 堀川純也(4年) 関卓哉(4年) 川瀬孝則(3年)<br>男子4×400mR2位瀬野貴志(4年) 三谷望(2年) 桑島拓郎(3年) 山下翔太郎(1年)<br>男子棒高跳1位船本稜矢(3年) 2位岡本拓巳(1年)<br>男子やり投2位八木一憲(4年)<br>女子100m2位中嶋瑞穂(3年) 3位高橋直子(4年)<br>女子200m3位森美悠(1年)<br>女子400m2位竹田喜実(4年)<br>女子800m1位大宅楓(4年) 3位犬童純伶(1年)<br>女子1500m2位康本花梨(1年)<br>女子5000m1位芦麻生(4年) 3位酒井優莉菜(1年)<br>女子100mH2位原美咲(3年)<br>女子400mH2位毎床結紀(3年)<br>女子4×100mR1位田井茜(3年) 高橋直子(4年) 山本果苗(1年) 中嶋瑞穂(3年)<br>女子4×400mR1位白永優美子(3年) 森美悠(1年) 竹田喜実(4年) 加藤春乃(4年)<br>女子棒高跳1位福島沙和子(4年) 2位鈴木里菜(2年)<br>女子走幅跳2位千葉瑞穂(3年)<br>女子三段跳3位近藤祐未(1年)<br>女子ハンマー投3位内山朋香(4年)<br>女子やり投3位長島里緒奈(2年) |
|             | 第94回関東学生陸上競技対校選手権大会                                                      | 男子10000m1位山中秀仁(4年)<br>男子4×100m R 2位島村亮(3年) 山本悠史(3年) 関卓哉(4年) 松尾慎太郎(4年)<br>男子棒高跳1位船本稜矢(3年) 2位濱崎優(3年)<br>男子やり投3位恵良友也(4年)<br>男子3部棒高跳1位山本智貴(大学院1年)<br>女子800m2位北村夢(2年)<br>女子100mH3位福部真子(2年)<br>女子4×400m R 3位竹田喜実(4年) 森美悠(1年) 大宅楓(4年) 北村夢(2年)<br>女子棒高跳1位2鈴木里菜(2位) 3位倉持美喜(3年)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|             | 2015日本学生陸上競技個人選手権大会                                                      | 男子棒高跳1位山本智貴(大学院1年) 2位船本稜矢(3年)<br>女子800m3位熊谷彩音(1年)<br>女子5000m2位茶谷琴恵(1年)<br>女子棒高跳2位鈴木里菜(2年)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|             | 2015年 J O C ジュニアオリンピックカップ                                                | ジュニアの部フリースタイル 55kg級1位長谷川敏裕(1年)<br>60kg級1位樋口黎(2年)<br>66kg級3位島袋慶生(1年)<br>ジュニアの部グレコローマン 60kg級2位小林大樹(1年)<br>66kg級1位澤田夢有人(2年) 2位山本貴裕(2年) 3位遠藤功章(1年)<br>74kg級1位屋比久翔平(3年) 3位村上翔(2年)<br>84kg級1位塩川貴太(2年) 2位西山慎吾(1年)<br>96kg級1位奈良勇太(2年)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| レスリング       | 第20回東日本アルティメットフレッシュマンズカップ                                                | 女子1位                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|             | 混合バレーボール同好会 関東A大会                                                        | 1位                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|             | 関東A大会                                                                    | 3位                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| セパタクロ-同好会   | セパタクロ-新潟オープン選手権大会                                                        | 1位                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|             | Wディビジョン1位小林菜音(4年) 井上みく(3年) 2位杉原由(4年) 上本瑞季(3年) 倉持瑛里香(3年)                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| ダブルダッチサークル  | World Jump Rope日本予選                                                      | スピード・フリースタイル総合優勝Aile-D'ore高山祥希(3年) 村瀬理(3年) 附柴優(3年) 高津愛加(3年)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|             | 42nd Annual American Double Dutch League World Invitational Championship | オープン部門優勝Re-Bien高浜力(4年) 中村亮太(4年) 志村侑亮(4年) 小林千尋(4年) 小玉祐里(4年) 塩澤来実(4年)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| フィンスイミングクラブ | 第2回フィンスイミング世界学生選手権大会                                                     | 女子50m×4 BFリレー3位室井真純(3年)<br>男子50m×4 BFリレー1位三村逸人(2年)<br>男子50m×4 BFリレー1位松下真清(2年)<br>女子50m×4 SFリレー3位中田瑞紀(3年)<br>女子50m×4 SFリレー3位浜田未来(4年)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|             | 第27回フィンスイミング日本選手権大会                                                      | 女子400mBF1位室井真純(3年)<br>男子400mBF1位三村逸人(2年)<br>男子400mBF2位吉田拓(2年)<br>女子200mCMASBF1位室井真純(3年)<br>男子200mCMASBF2位三村逸人(2年)<br>女子50mCMASBF3位藤田聡子(3年)<br>女子400mSF2位志村あすか(2年)<br>男子1500mSF2位井上祐輝(3年)<br>男子1500mSF3位吉田拓(2年)<br>女子100m×4 BFリレー3位宮沢さや加(1年) 八田未央(1年) 古瀬真美(2年) 藤田聡子(3年)<br>女子200m×4 SFリレー3位志村あすか(2年) 中田瑞紀(3年) 小野裕美(4年) 浜田未来(4年)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |





### 平成27年4月3日 入学式を挙

平成27年4月3日(金)、東京・世田谷キャンパスにて、平成27年度入学式を挙行し、新入生 1,733名、保護者2,150名が参加いたしました。本年度は、体育学部1,294名(体育学科746名、健康学科195名、武道学科147名、社会体育学科197名、編入学107名)、児童スポーツ教育学部208名(児童スポーツ教育コース157名、幼児教育保育コース51名)、保健医療学部185名(整復医療学科99名、救急医療学科86名)、大学院体育科学研究科59名(博士後期課程8、博士前期課程38名)が本学への入学の許可を受けました。



### 日体大、国立韓国体育大学と学術・スポーツ交流協定(交換留学を含む)を締結

平成27年4月27日に本学と国立韓国体育大学との間で学術・スポーツ交流協定を締結しました。協定書の調印式と記者会見は、国立韓国体育大学 ソウルキャンパスに於いて行なわれ、相互協力によって両学が認定するコース(授業・カリキュラム)において、共同研究プロジェクト並びに教員、研究者および学部・大学院の学生を交換し、学術的な協力関係を築くことを目的としております。



### 女子サッカースポンサー決定共同記者会見

平成27年6月8日(月)、東京・世田谷キャンパス中会議室にて、女子サッカースポンサー決定に伴うフィールズ株式会社との共同記者会見を開催いたしました。会見には、フィールズ株式会社 繁松徹也取締役副社長、トータル・ワークアウトプレミアムマネジメント株式会社 池澤智代表取締役社長に出席いただきました。

企業理念である「すべての人に最高の余暇を」の実現に向けてフィールズ株式会社がこれまで行ってきたスポーツへの理解から、本学とのスポンサー関係が築かれることになりました。フィールズ株式会社からの資金援助だけではなく、トータル・ワークアウトプレミアムマネジメント株式会社による卒業生の受け入れもいただくこととなりました。



### リンネ大学(スウェーデン王国)、オレロップ体育学校(デンマーク王国)と学術・スポーツ交流協定を締結

平成27年6月10日にスウェーデンのリンネ大学社会科学学部(体育学科)と、そして6月18日にデンマークのオレロップ体育学校と学術・スポーツ交流協定を締結しました。リンネ大学とは、両学が相互に認定するコース(授業・カリキュラム)において、共同研究プロジェクト並びに教員、研究者および学部・大学院の学生を交換し、学術的な協力関係を築くことを目的とし、オレロップ体育学校とは本学の夏季・春季休業中の最長1ヶ月までの期間で、スポーツ交流を中心とした学生を交換し、協力関係を築くことを目的としております。



## FIFA女子ワールドカップカナダ2015の パブリックビューイングを開催

今年開催されたFIFA女子ワールドカップカナダ2015を本学でも地域社会貢献活動の一環として下記の日程でパブリックビューイング(PV)を実施いたしました。この大会には本学のOGである近賀ゆかりさん(H18年度卒)、川澄奈穂美さん(H19年度卒)、有吉佐織さん(H21年度卒)が参加しておりみんなでOGの活躍を応援しました。

このPVは予選、本選も含め合計4回開催され、延べ262名の方々が参加し地域の方々と共に盛んに開催され、楽しい時間を過ごすことができました。

①6/13カメルーン戦 ②6/17エクアドル戦 ③6/28準々決勝オーストラリア戦 ④7/6決勝アメリカ戦



## ニジェール共和国イスフ・マハマドゥ大統領閣下ご一行が日本体育大学を訪問

平成27年6月20日(土)ニジェール共和国イスフ・マハマドゥ大統領閣下ご一行が、東京・世田谷キャンパスをご訪問されました。大統領閣下は日本の伝統文化に大変興味をお持ちで、特に「相撲」を見学したいとのご希望により本学来校が実現しました。

イスフ・マハマドゥ大統領閣下のニックネームは「ザキ」。ハウサ語で「ライオン」を意味しており、本学のシンボルマスコットと同じであるという縁もあり、ご熱心に相撲見学をされその後記念植樹を行いました。今回のご来校がきっかけとなり、スポーツ・文化及び学術分野における両国の交流がますます強い絆となれどと願っています。



## 公開講座「あなたの健康と命を守るために」開催

平成27年7月4日(土)東京・世田谷キャンパス記念講堂にて公開講座を開催いたしました。これは、本学の有する教育・研究資源および学術的成果等を地域に還元することを通して社会に貢献を図り、地域住民の健康の保持・増進だけでなく、地域コミュニティの活性化につなげると共に、本学における教育・研究活動の拡充に結びつけることを主たる目的として、昨年4月に設置された保健医療学部の先生方により実施したものです。

当日は、約400名の方々が参加され熱心に講演に耳を傾けていました。専門家による実例を挙げた講演は、参加者の健康と命について考えるととてもよききっかけとなったようで、大変盛況な公開講座となりました。今後も本学ではさまざまなテーマで公開講座を開催いたします。詳しくは本学のホームページをご確認ください。



## 全国体育スポーツ系大学協議会が一般社団法人化

松浪理事長が会長を務めている全国体育スポーツ系大学協議会が一般社団法人化いたしました。現在32大学が加盟し、米国でいうところのNCAA(全米大学体育協会)にあたる「大学体育連盟」設立に向けての大きな一歩となるべく検討を進めています。本協議会が「大学体育連盟」となり、2020東京オリンピック・パラリンピックに向けて、今後のスポーツ界において重要な存在となるべく記念すべき設立祝賀会が7月6日(月)、ホテルニューオータニで開催され、森喜朗元首相や下村博文文部科学大臣など著名な方々が出席し設立を祝いました。

我が名は獅子丸…



強き願いのある者は  
我にまたがり願いを叶えよ！

## 命名「獅子丸」イベント

# 獅子丸に跨って記念写真を撮ろう！

三越ライオン像設置 100 周年と日体大創立 125 周年を記念して寄贈された東京・世田谷キャンパス正門広場に鎮座しているライオン像は、学内の公募により「獅子丸」と名づけられました。

これを記念し、獅子丸に跨った写真（携帯）を広報課に持ってきてくれた先着 1,000 名の方々に「日体大勝守」を配布いたします。

跨ると願いが叶うとされています。どんどん参加してください！



Get



### 日体大勝守 Get までの流れ

- |                   |                      |
|-------------------|----------------------|
| Step 1 友達を探す。     | Step 4 携帯で写真を撮ってもらう。 |
| Step 2 獅子丸を見つける。  | Step 5 友達の分も撮ってあげる。  |
| Step 3 強い願いを込め跨る。 | Step 6 広報課で写真を見せる    |

問合せ先：広報課 03-5706-0948